

人材育成支援を目指した 展示即売会を開催

町内の意欲ある若者を支援しているNPO法人西原町人づくり支援の会の財源確保を目的とした「第16回チャリティー展示即売会」が、4月19日から3日間、サンエー西原シティで開催されました。展示会には陶芸、書道、絵画、手工芸品など300点以上が揃い、多くの買い物客が作品を買い求めました。

同NPOはこれまで即売会の売上や会費、寄附などを財源に、町内小中学校への図書や海外留学の支援、大学の奨学金や奨励金の給付などを実施し、若者を支援する人材育成支援事業に取り組んでいます。

展示会の開催にあたって新川武雄理事長が「各団体や事業所の協力のもと、即売会が開催できた。今後も才能のある若者を支援し続けたい。」と抱負を述べました。



海開きを前に、ビーチの安全を祈願

西原マリンパーク内の西原きらきらビーチが4月27日に海開きを迎えるのを前に、26日に安全祈願祭が実施されました。祈願祭には施設のスタッフや関係者などが出席し、本格的なシーズンに向けて安全を祈願しました。



西原マリンパークの指定管理を受けている(株)クリード沖縄の玉城芳信代表取締役は「オフシーズンもイベントなどで利用が進み、知名度もあがっている。今後もより多くの方に利用していただきたい」と今年の抱負を語りました。

小波津区が農業研修を実施



農業生産の技術向上を図ることを目的に、小波津区農業視察研修(小波津自治会主催)が4月23日に開催されました。

研修では同区の農家19名が沖縄県立農業大学校(名護市)を訪問。野菜や花き、果樹の畑やハウス設備を見学しました。参加者は「研修を通じて、農業経営における基礎的な技術、専門知識を学ぶことができた。これからの生産向上につなげたい」と感想を述べました。

まちの話題

鯉のぼり掲揚式で、 子どもたちの成長を願う

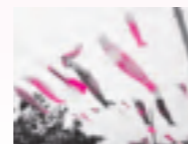


こどもの日を前にした5月1日に、町中央公民館で第6回手づくり鯉のぼり掲揚事業(町社会福祉協議会

主催)が開催されました。

同事業のメインとなる鯉のぼり掲揚のイベントには坂田、さうんど、西原、愛和、さくらんぼ保育園と西原南幼稚園の園児が参加。当日はあいにくの雨模様となり、イベントはホール内で行われましたが、子どもたちのお遊戯などがにぎやかに披露されました。

また、同事業を実施するにあたって、西原町電設会(塩川貴隆会長)がコンクリート製のポールを提供しました。4月30日には、同会がボランティアで町中央公民館の駐車場入口にポールを設置し、鯉のぼりの設置作業を行いました。



“梅の香りうた遊び大会” 大いに盛りあがる

字小那覇出身の作曲家、新川嘉徳氏の代表作「梅の香り」を地域で保存継承・発展させ、後世に歌い継ぐことを目的に「第11回梅の香りうた遊び大会」(「梅の香り」歌碑建立記念事業委員会・小那覇自治会主催)が、4月27日に小那覇児童公園で開催されました。

今大会には、ペルーから参加の高江洲ヘシケジュリアさおりさんなど16組が出場しました。同公園には「梅の香り」の歌碑が建立されており、歌碑をバックに設置された特設ステージで、各出場者が日ごろの練習の成果を披露。会場にはたくさんの来場者が訪れ、春の夜風に乘せた出場者の歌声に耳を傾けていました。厳正な審査の結果、町在住の城間雄伍さんが大賞に輝きました。



水墨画サークルから、絵本作家誕生!

町中央公民館サークルの「水彩画サークルひまわり」で活動している麓文子さん(字幸地在住)が、沖縄の民話を題材にした絵本を完成させました。麓さんが小学校の読み聞かせボランティアで英語の絵本を読んだところ、生徒たちに大好評。もっと英語の絵本を読んでもあげたいという思いがきっかけで、自ら絵本を製作したそうです。製作期間に約3ヶ月を要し、4月に自費で出版。この絵本は町立図書館に寄贈され、閲覧・貸出しています。



前列中央が麓文子さん

絵本のタイトルは「鬼ムーチーの話」。ムーチーを題材にした話で、小学校低学年を対象にしたシンプルなストーリーになっています。また、文章は日本語と英語が併記されています。製作にあたっては「文章は英語のストーリーを先に考えた。原画はサークルの先輩や先生からアドバイスを受けながら描き上げた」とのこと。麓さんは「子どもたちが昔から地域に伝わる民話や物語に親しみを持つようになってほしい。この絵本がそのきっかけになったら嬉しい」と、絵本への思いを語りました。

赤十字奉仕団が出発式

日本赤十字社の社資(活動資金)募集を目的とした5月の赤十字社員増強運動月間を前に、同社の沖縄県支部西原町赤十字奉仕団(城間富子委員長)が、4月25日に社資募集出発式を行いました。



国境・宗教・人種を超えた幅広い人道的支援に取り組む日本赤十字社は、社資を財源として活動しており、多くの方の継続的な協力が必要となっています。運動月間の期間中は、奉仕団員が各地域を回って社資の募集を呼びかけました。

出発式で城間委員長は「1軒1軒、地道に声かけをして、理解と協力を募りましょう」と団員などに呼びかけました。

内閣団地自治会などにコミュニティ助成

宝くじ普及広報事業の「平成25年度コミュニティ助成事業」の助成団体に、3自治会が決定しました。助成を受けるのは、内閣団地自治会と西原台団地自治会、幸地ハイツ自治会です。4月17日には各自治会に対し、上間明町長が決定通知書を交付しました。

今年で自治会結成30周年を迎える内閣団地自治会は、集会施設の備品やイベント用品の整備を予定しており、記念事業などに活用する計画です。西原台団地自治会は積年の願いでもある集会施設の建設を行い、地域活動の拠点を整備します。幸地ハイツ自治会は青少年健全育成事業の一環として親子で参加する学習、レクリエーション事業を実施することになっています。



平和事業の推進を目指す

西原町平和事業推進委員会の委員への委嘱状交付式が4月26日に行われ、10名の委員に委嘱状が交付されました。同委員会は西原町平和条例で位置付けられたもので、平和事業の推進、平和に関する事項の調査、研究等を目的に設置されたものです。委嘱状を交付した上間明町長は「西原町は去る大戦で多くの犠牲や廃墟から立ち直ったまち。平和への願いは強く受け継がれている。今後の平和事業についてしっかり検討していただきたい」と激励しました。



長年の行政相談委員活動に感謝

行政相談委員を3期6年間務めた平良ヨシ江さん(写真中央)に対し、総務大臣から感謝状が送られ、4月30日に贈呈式が行われました。



行政相談委員は、ボランティアで住民から行政に対する苦情や意見、要望を受け、公平中立な立場で解決や実現を目指し、制度や運営の改善を図っています。